

平成25年度第1回花巻市総合計画審議会（会議録）

1 開催日時

平成25年6月3日（月） 午前10時 ～ 正午

2 会場

花巻市役所本庁舎 302・303会議室

3 出席者

花巻市総合計画審議会委員17名：中村良則会長、佐藤良介副会長、宮澤啓祐委員、高橋勲委員（代理高橋照幸事務局長）、平賀喜代美委員、藤沼弘文委員、今井洋一委員、小原康二委員、土岐紀一委員、高橋要委員、伊藤成子委員、尾美裕功委員、中島健次委員、佐々木一夫委員、菅原昭造委員、小原宏委員、岩淵満智子委員

市側：大石市長、亀澤政策推進部長

事務局：企画調整課総合計画策定室（佐々木室長、菅野次長、瀬川主査、寺林主査、藤田上席主任、伊藤上席主任、佐藤主任）

4 会議内容

【1 委嘱状交付】

出席委員17名に対し、市長から花巻市総合計画審議会委員委嘱状の交付

（欠席 高橋勲委員、大沼一夫委員、平賀恒樹委員）

【2 開会】

（佐々木室長） 本日の審議会は委員の過半数の出席により、花巻市総合計画審議会条例第4条第2項の規定に基づき、会議が成立することを報告

また、「花巻市審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき、公開していることを通知

【3 市長あいさつ】

（大石市長） お忙しい中のご参集及び委員就任に感謝。総合計画の策定にあたり、現在は市民会議ほか多くの方々の意見を頂戴しているところ。本審議会は、最終的な素案を諮問し答申いただくことで計画が確定する場であり、その後議会の議決を経て決定という流れになる。

策定において、今までとは全く違う考え方の計画となっており、実際に実施する事業を盛り込んだ従来型の計画ではなく、将来のあるべき姿・目標を定めたいえ、目標に向かっていく方向性を示す内容となっている。従って、個々具体の事業は一切入っていない中身

となっており、一見違和感を感じると思うがご了承願う。

骨格の計画期間は10年であるが、それを3等分した近未来の目標であるアクションプランに沿って事業を実施していく。その中では、社会状況等を踏まえたうえ、その年における一番良い事業を展開していく考え方で、目標数値の指標も入ってくる。

本計画は、市民が望む市の将来像を示したものであることをご理解のうえ、策定にご協力をお願いする。

【4 会長・副会長選出】

(佐々木室長) 事務局案として、選出までの仮議長に前会長の中村良則委員を推薦

(中村仮議長) 花巻市総合計画審議会条例第3条第1項の規定により、委員の互選による会長・副会長の選出

(今井委員) 会長に中村良則委員、副会長に佐藤良介委員を推薦

～一同異議なし～

【5 会長あいさつ】

(中村会長) 前回の総合計画審議会とは違い、東日本大震災、アベノミクス等の新しい経験を経たうえでの審議会となる。以前と比べ国際化が進む一方、地元の大切さが見直され、助け合いの精神が感じられている状況である。これから新しい時代に向かううえで、尚のこと足元を固め、住みやすい確かな花巻を創っていくことが大事なことでないか。本審議会においても、そういった観点から議論がなされれば幸いである。

【6 説明】

(佐々木室長) 配布資料により、策定経過、計画素案(長期ビジョン、中期プラン)、今後のスケジュール等について説明

【7 質疑】

(藤沼委員) 市民会議の提言書の目指す姿は、どこか整合性を欠く感じ。「歴史と文化」など、過去のことがあったり、良いこと尽くめで薄いのかなと感じる。また、万一というのが何もない。何か起きた時にどうするかということを入れるべきではないか。

市の将来像としては、温泉等の観光やスポーツによる地域間交流を生かした、活力があり若者が働きやすいまちなどが挙げられると思うが。

(中村会長) 当該部分は、市民会議の「暮らし」検討チームが作成したものにつき、そのような目標像になっていることをご理解願う。今のお話をご意見として承る。

(小原委員) 新しい計画の素案と市民会議と、どのように結びついているのか。

(菅野次長) 市民会議においては、花巻市の強いところ・弱いところを踏まえたうえで、今後どのようなことに取り組んでいけばよいのか、どのようなまちになっていけばよいのかを各分野において検討いただいた。

その検討結果については、市の将来像、各分野の目指す姿、取組みの方向性として、長期ビジョン、中期プラン策定の参考とさせていただいた。

(平賀委員) 将来都市像の中に、市民憲章と同じような中身がちりばめられている。市民会議では、市民憲章のことは議論として出なかったのか。せっかくなので、市民憲章を中心に作ってはどうか。

(市民憲章が前提となっているのであれば) 市民憲章との繋がりの説明などがあればよいのではないかと。

(菅野次長) 市民憲章のほか、まちづくり基本条例や福祉・環境等の各種計画において、現在いろいろな市の目指す姿がある状況であり、市民憲章を中心に作ることはならなかった。しかし、表紙の裏に市民憲章を掲載するなどの取り扱いを検討したい。

(中村会長) 市民憲章は少々次元が違って、精神的なものであろうと思うが、これを前提にしたうえでの10年後の基本的な目標が総合計画であるという位置づけである。

(平賀委員) そのような前提であれば、説得力があり納得できる。

(今井委員) 6月28日の審議会における意見聴取は、本日の説明に対する意見を聴取する場ということでよいか。その後、市民アンケート・パブリックコメントを集約したものが出てくるという理解でよいか。

(中村会長) 6月28日には、パブリックコメントの途中経過等の追加資料はあるのか。

(菅野次長) パブリックコメント・地域協議会の意見集約結果は第3回目にお示しする予定であるが、次回6月28日は途中経過の資料を事前送付させていただく。

(藤沼委員) 総花的なのは仕方ないとしても、市民にわかりやすい計画にするために、「メインテーマ」のようなものを明確に示す必要があるのではないかと。

例えば、人口減少を止めるための施策や生活保護者を減少させる施策、または、農業・工業・観光・スポーツ等のどの分野に力を入れていくのかなど、具体的に示す必要があるのではないかと。

(宮澤委員) 市民会議の位置づけは何か。市民会議は終了したとしても、計画策定の準備段階として、どこかに位置づけなくてよいか。

(菅野次長) 市民会議の位置づけは、市民の自由な発想でのご意見を頂いたうえ、その意見を市で調整するという、市民参画・市との協働の場と考えている。その計画策定の経過は資料編に掲載する予定である。

(中村会長) 長期ビジョンは10年後の将来像を示すものとして、市民会議の意見が最大限尊重されていると感じる。一方、それを具体化する市の政策としての中期プランについては本日の資料では情報が少ない。アウトラインで構わないので、策定途中の姿を示してもらえれば、長期ビジョンと並行して議論しやすく考えやすいのではないかと。

(佐藤副会長) 花巻市の人口の自然減と社会減の状況はどうなっているのか。

(菅野次長) 高校・大学生の就職による市外・県外転出といった社会減もあるが、主な要因としては高齢化の進行による自然減であると認識している。奥州市・一関市においても同様な傾向であり、北上市は当市に比べ減少率が緩やかな状況である。

(中村会長) 花巻市は岩手県の動向と並行している。県内他市と比較した場合、若者の転入数が少ないのが特徴で、盛岡市は大学やサービス業、北上市は製造業が盛んで人口減少が緩やかなのに対し、花巻市は圧倒的に自然減が大きく65歳以上の減り方も早い。20代後半から30代前半の子育て世代が花巻市に戻ってこれる雇用環境や引き付ける力が必要である。

(岩淵委員) 市民会議で市民や企業の役割を検討したが、これがどれだけの市民に伝わるか懸念している。各地区の市政懇談会においても出席者は一部の方だけの少ない参加状況を鑑みると、非常に心配である。このようにありたいという市民が増えるよう、もっと呼びかけていかなければならないと思っている。

(中村会長) 市民会議の提言と市の計画の体系が大きく変わっているところがある。「暮らし」が2本から1本になったこと、「地域づくり」、「行政経営」が分かれたことについて、次回の会議で議論したい。また、10年後の将来像について、市民会議の提言書から変わっている部分についても併せて議論すべきものと考えている。

(菅野次長) 将来像については改めて審議いただきたいと考えている。分野について、「暮らし」分野は範囲が大きいという理由で検討グループを2つに分けたこと、「行政経営」に

については、行政で考えるべきものという理由で「地域づくり」と分割したものであることをご理解願いたい。

(土岐委員) 地区ビジョンについて、各地区で良いビジョンはできるが、「担い手作り」に非常に苦勞しているため、その点にも触れて欲しいと思う。

(中村会長) 会議で審議し、どこかに反映できればよいと思う。

【8 閉会】